

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	湯津上地区 (狭原・小船渡・中の原地区)	令和3年3月25日	令和6年3月19日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	445.96 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	338.04 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	40.60 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	21.22 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	64.21ha
(備考)	

## 2 対象地区の課題

狭原の山野地区では、基盤整備をしておらず、小さい農地が多く、大型機械が入れない等の問題がある。  
小船渡地区では湿田が多く、山沿いでは林地化の進行が進んでおり、地区内の耕作者は兼業農家が殆どである。  
中の原地区では、担い手は多いが、後継者不足である。牧草場がメインであり、赤土で傾斜が多い等の問題がある。また、果樹に獣害（ハクビシン）がある。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

狭原の山野地区では、土地改良に向けた取組を7年間取り組んでおり、徐々に意向も高まっている。今後、行政と一体となって基盤整備の実現に取り組んで行くことが将来方針になる。基盤整備済の農地については、耕作条件が良いので4名の担い手を中心に集積・集約化を進めていく。

小船渡地区では、3名の担い手が期待され、隣接する湯津上地区からの担い手にも期待しつつ集積・集約化を推進していく。

中の原地区では、酪農家が多いことから牧草場が多い、圃場も区画が大きいため耕作はしやすいので、今後も酪農家を中心に集積・集約し耕作していく。また、地区の担い手は多いので、今後は期待される。

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

## 基盤整備への取組方針

狭原の山野地区では、農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を進めることで、一大園芸地帯として利用が期待される。

## 担い手の受け入れに関する方針

小船渡地区では、まずは地区内の耕作者の貸借を促進させ、それだけで賅えない場合は、地区外からの担い手の受け入れを検討していく。

## 新規就農者の就農

狭原地区、中の原地区で、果樹や園芸作物について就農希望する若い農業者がいるので、人・農地プラン等の地区の話し合いをきっかけにして、今後の就農・規模拡大が期待される。